

令和6年度 横浜市廃棄物処理施設生活環境影響調査専門委員会 会議録	
日 時	令和7年2月27日(木) 10時00分～11時40分
開催場所	横浜市役所18階 なみき18・19会議室
開催方法	WEB会議
出席委員	鎌田委員、中井委員、藤倉委員、藤吉委員、安田委員
欠席委員	なし
開催形態	公開(傍聴者3人)
議 題	「アイテックグリーンパーク横浜2 産業廃棄物処理施設設置許可申請」に伴う生活環境の保全について
決定事項	なし
<p>1 処理施設設置許可申請手続きについて(資料-2)</p> <p>(1) 施設設置に係る手続きの流れについて事務局(事業系廃棄物対策課)が説明した。</p> <p>(2) 質疑 意見なし。</p> <p>2 「アイテックグリーンパーク横浜2 施設計画・生活環境影響調査概要」説明資料(資料-3)</p> <p>(1) 事業計画及び生活環境の保全について事業者(アイテック株、株オオスミ)が説明した。</p> <p>(2) 質疑</p> <p>【安田委員】 騒音の予測について、SuperNOISE(P)というソフトを使っているというご説明でした。おそらく色々な解析ができると思います。例えば、周波数毎に分けた解析をして最後に合成することもできれば、全周波数含んだ騒音レベルとして解析することもできるかもしれませんが、予測の際にソフトはどのような設定で、どのように騒音源や回折を扱ったのか、これは一通りではないので今回はどうしたのかをお聞きしたいです。</p> <p>特に疑義があるのは報告書にあった式です。例えば、式中のある項はオーバーオール値といって、低い音から高い音まで全部含んだ扱いですが、同じ式の中に周波数毎の値がありました。周波数毎の補正量と、全周波数成分を含んだパワーは足し算できませんので、明らかに間違っています。何が正しいのかは設定次第なので分かりません。例えば、回折減衰の式は、周波数毎にしか算出できない式になっています。回折減衰量をこの式で算出すると書いてありますが、ここに出てくるNには波長が入っています。波長ということは、高い音と低い音で変わるといいますから、周波数毎にしか算出できません。ところが、一番上の式は騒音レベルと書いてあるので、全ての周波数成分を含んだオーバーオール値であり、矛盾しています。どちらが正しいということはなく、これはどちらかのやり方に基づいて、妥当であれば良いことなのですが、とにかく間違っていると思います。</p> <p>【事業者】 周波数毎の計算はしておらず、騒音レベルの計算を全てで行っております。</p> <p>【安田委員】 その際に、先ほどの回折減衰量の式は使えないはずなのですが、どうやって使ったのですか。</p> <p>【事業者】 すみません。少し間違っているところがあったかもしれません。基本的には、生活環境影響調査の指針に基づいた式となっております。予測ソフトにつきましては、そのような設定をして計算しております。</p>	

【安田委員】 単純に考えて、回折減衰というのは音の回り込みですから、低い音だと回り込みやすいし、高い音は回り込みにくいです。どこかの周波数で代表して出してしまうと、例えば、低い音が非常に大きい音源だと危険側の予測になり、逆に高い音が非常に大きい音源だと安全側の予測になります。透過損失も同様で、低い音は透過しやすく、高い音は透過しにくいです。それらをどう考えて予測されたのでしょうか。

そして、それが安全側になっているのかどうか最も大事かと思います。特に、夜間で55 dBで規制値ぴったりの地点があったと思うので、かなりギリギリだと思います。余裕がものすごくあれば、そこまで気にしなくてもいいのだと思うのと、周辺に住宅がないので、実際に苦情が出ることは無いのかなという気はしますが、いずれにしても、報告書としては不十分かと思います。

後日で結構ですので、ご説明をお願いします。

【事業者】 今回の予測につきましては、全ての機械がフルパワーで稼働した状態の計算をしておりますので、実際には、それよりも小さくなることも考えられますし、少し余裕を見た計算にはなっております。

【安田委員】 その辺の考え方を含めて、よろしく願い致します。

【藤吉委員】 造粒固化処理の事業者というのは、ばいじんと燃え殻は同じ原料として処理しているのでしょうか。別処理にしていないのでしょうか。

【事業者】 燃え殻、ばいじん以外に金属系、建設系の汚泥を全部混ぜて処理しております。汚泥や鉱さい等を混ぜて全て同じピットに入れて、混合、攪拌という形で処理しておりました。

【藤吉委員】 ご存知のように、ばいじんの方が重金属の含有量が多く、キレート処理している訳ですので、それが同じ様な扱いというのが気になりましたが、上手くいっているのですか。

【事業者】 当然、私どもも出す時にキレート処理して出しておりますし、こちらの方でも、汚泥、燃え殻、ばいじんに関しては、受け入れの可否の判定をしておりますので、オーバーするようであれば受け入れ不可という判定が出てまいりますので、この点に関しましては、適正に品質管理しておるといふ風に認識しております。

【藤吉委員】 最終的には製品として使う時には、土壤環境基準はクリアしているのですね。

【事業者】 そうです。全部リサイクルの認定品にも設定されておりますし、全て品質管理して処理されております。

【藤吉委員】 分かりました。

二点目ですが、最近、リチウムイオン電池の影響でよく火災が起きています。ピット火災の対策は何かされていますか。

【事業者】 ピット火災に関しましては、基本的に電池類は受け入れしないという方向にしております。ピットで火が出た場合は、初期消火しかありませんので、プラットフォームから散水するような設備を設ける計画としております。

【藤吉委員】 ピット内の火災発生の検知器と、検知したら自動的に噴霧するような装置が何か付いているか、その辺が聞きたいのですが。

【事業者】 この施設に関しましては24時間運転で常時、人が監視しておりますので、検知設備に関しては計画しておりません。これは1号炉とも同じ考え方で計画しております。

【藤吉委員】 高価なものではないので、ピット内の全体をサーチできるような検出器があった方がいいのではないかと思います。最近、リチウムイオン電池の発火はものすごく多いです。前向きにご検討いただくといいと思います。

【事業者】 検討させていただきます。

【藤倉委員】 スライドの42ページについて、廃液関係はペール缶か何かで搬入されるのですか。

【事業者】 そうです。今回の2号炉に関しましては量の少ない廃油・廃液しか考えていません。その関係で、必ず計量だけはしますが、後は台車やフォークリフトでタンクの近くまで持って行き、手でタンクの蓋を開けて投入する計画としております。

量の多い場合は、1号炉の方に重量タンクがありますので、ローリーで受け入れる計画としております。

【藤倉委員】 受け入れた容器のまま保管するということではなく、必ずこの1キロリットルのタンク等に入れるということによろしいですか。

【事業者】 量によっては、そのままピットに投入するケースもありますが、基本的には、タンクの中に移し、タンクからポンプで炉内噴霧するという考え方でおります。

【藤倉委員】 量によって直接噴霧することが有り得るのですか。

【事業者】 直接噴霧というよりは、量が少なければピットにこぼすということです。ピットにこぼして処理した方が作業としては楽になりますから。

たくさんの量が来れば、タンクに全部移してタンクからポンプで炉内噴霧するという計画としております。

【藤倉委員】 この380リットルとか1キロリットルのタンクというのは屋外にあるわけですよね。

【事業者】 屋外です。

【藤倉委員】 分かりました。

想像していたよりタンクが小さいので、液漏れは大丈夫だと思いますが、タンクへの投入時に一時的に開放的になり、臭いが出たりする可能性がゼロではないわけですよね。

そこをお願いしたいのは、44ページに日常点検のご説明で、ボイラー等の日常点検について説明をいただきましたが、敷地内の異臭、臭いについても、普段から日常点検をしていただきたいということ。何か異常があったら、臭いは職員の方の嗅覚でもある程度わかるので、液の移し替えも含め、あるいは色々な保管の異常も含め、臭いで判別、検出できることも有りますので、是非、臭いについても日常点検をしていただきたい。

【事業者】 分かりました。十分対応させていただきます。

【中井委員】 今回、2号炉ということで、1号炉との位置関係を見させていただきましたが、多分距離的に250メートル位の違いという風に思いますが、他の企業もあるのは承知しているが、1号炉との複合効果を考えなくていいのでしょうか。

【事業者】 基本的にグリーンパーク1炉しかございませんので、どうしても炉の補修で、3週間程度、炉を休止するケースがあります。そういう関係で、お客様に迷惑かけているというところがありますので。2号炉が完成すれば、2炉体制になります。2炉体制になりますと1号炉が休んだ時は、2号炉で操業可能、2号炉が休めば1号炉で操業可能に、休炉のスケジュールを変更いたしますので、それによりまして、お客様の方に対しては、非常に有利な、私どもにとっては、有利な営業展開ができるという形で、そういう点で2炉体制はメリットが有るという風に理解しております。

【中井委員】 同時に稼働している時間が有るのでしょうか。

【事業者】 基本的に同時稼働します。休炉する場合は、時期をずらし、必ず1炉は稼働しています。

【中井委員】 2炉同時稼働となった場合の環境への影響はどうなるのか。値も大きくないとは思いますが、ダブルで考えなくていいのか。

【事業者】 2炉同時稼働となった場合に関しまして、1号炉に関しましても、施設の完成後に地元自治会との協定で、完成後の一年間の四季調査を実施しております。2号炉が完成しますと同じように、一年間の四季調査を実施いたします。大気関係に関しましては、1号炉と2号炉が同時稼働している状況で調査を行うことにより、環境に影響を及ぼしてないということの確認をしたいという風に考えております。

【鎌田委員】 高潮の想定が令和5年度のデータということだったと思いますが、神奈川県から令和6年度に見直しのデータが出たと記憶しております。計画地域の想定に変更が有ったか分かりませんが、使用した想定データとの関係を教えてください。

【事業者】 神奈川県の高潮の想定資料なんですけど、最新のデータで使ったと考えております。その関係で、2号炉の地域に関しましては、高潮の浸水の目安ということで、50センチメートルから3メートル以内という風に確認しました。

【鎌田委員】 資料上、令和5年になっていたと思うので、整合性を取っていただければと思います。

【事業者】 分かりました。

3 総括

(1) 後日回答となった質問事項

- ア 騒音予測ソフトの設定（騒音源や回折をどう扱ったのか等）について
- イ 騒音予測の手法が安全側であるか
- ウ 高潮被害の想定に用いたデータの整合性について

(2) ご意見

- ア ピット火災の対策として、検知器の設置を検討してください。
- イ 臭気対策として、日常点検に敷地内の臭気の確認を追加してください。

後日回答となりました項目については、別途報告を受けるものとします。

資料	<ul style="list-style-type: none">・資料－1 産業廃棄物処理施設設置許可申請書・資料－2 施設設置に係る手続きの流れ・資料－3 「アイテックグリーンパーク横浜2 施設計画・生活環境影響調査概要」説明資料・資料－4 「横浜市廃棄物処理施設生活環境影響調査専門委員会運営要綱」
----	--